

男里川河口鳥獸保護区

**鳥獸保護区更新調査業務
報告書**

平成26年度

大阪府環境農林水産部動物愛護畜産課

1.調査の目的

この調査は、平成 27 年 10 月 31 日で設定期間が満了する男里川河口鳥獣保護区の更新を行うため、野生鳥獣等の生息状況を把握し、基礎資料とする事を目的とする。

2.調査区域及び調査対象

男里川河口鳥獣保護区に生息する野生鳥獣等。

3.調査内容

実地調査及び既存データの収集・整理により、次の事項を把握する。

- ・当該地域の自然環境の状況
- ・生息する野生鳥獣の個体種別
- ・生息する野生鳥獣の特色・希少性

4.調査地の概要及び環境

男里川河口鳥獣保護区は、大阪府の和泉山系西部から流れ出た川が男里川となり、泉南市と阪南市の境界に当たる大阪湾に注ぐ河口から、男里橋までの堤防に囲まれた範囲である。面積は約 25ha であり、これは大阪府の鳥獣保護区内最小面積である。男里川河口、大阪湾、岬町の 3 特定猟具使用禁止区域(銃)に隣接している。

保護区内の植生は路傍空地雑草群落と自然裸地からなっており、男里橋から菟砥橋までの区域では、セイバンモロコシ、セイタカアワダチソウ、オオブタクサ、ヨモギ、ダンチク等の草本やクズ、アレチウリ、ヤブカラシ、カナムグラ等のつる性草本が多く、木本のアキニレ、エノキ、ヌルデ等の木本も僅かに見られる。河口付近ではハマダイコン、ハマゴウ、ハマヒルガオ、ツルナ、ハマウド、ハマサジ、ハママツナ、ホソバハマアカザ、ナガミノオニシバ等の塩生植物、砂丘植物が見られる。ハマサジ、ハママツナ、ナガミノオニシバは大阪府レッドリスト絶滅危惧Ⅰ類、ハマゴウは絶滅危惧Ⅱ類、ホソバハマアカザは準絶滅危惧である。

鳥獣保護区内の海浜は、淡路島や関西空港の見える位置にあり、穏やかな海と共に憩いを求めて訪れる人も多い。また、河口部に干潟があり、動植物の自然観察や教育の重要な場所となっている。

5.調査地域図

図1に、調査地域図を示す。



図1 調査地域図

6.調査方法

以下に示す資料による文献調査、ヒヤリング及び現地調査によった。

文献1:日本野鳥の会 大阪『むくどり通信 No175～234』(2005.1～2014. 11 のデータ)

文献2:きしわだ自然資料館資料

文献3:廣田博厚フィールドノート

文献4:大阪市立自然史博物館資料

現地調査は、文献調査の補足及び最新の状況把握を主眼として実施した。

7.調査結果

7-1.鳥類の確認

今回の調査により、男里川河口鳥獣保護区で確認した鳥類を、添付表 1 の男里川河口鳥獣保護区確認鳥種一覧表に示す。分類は2012年刊行の日本鳥学会『日本鳥類目録 改訂第7版』によった。

文献調査および現地調査にて101種の野鳥を確認した。確認した鳥類の内訳は、留鳥37種、夏鳥6種、冬鳥38種、旅鳥20種である。なお、留鳥(一部冬鳥)、冬鳥(一部留鳥)、旅鳥(一部夏鳥)の()付きの種についてはそれぞれ留鳥、冬鳥、旅鳥として分類した。

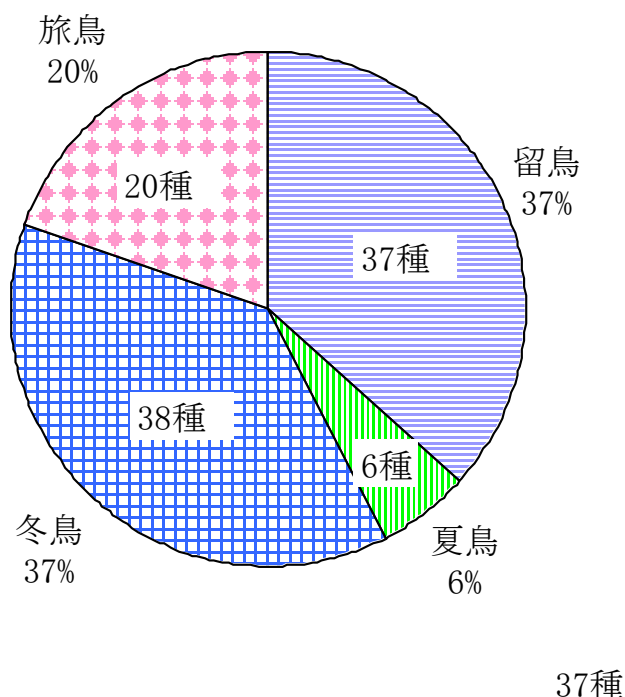


図2 生息区分割合(%)

生息区分については2002年刊行の(財)日本野鳥の会大阪支部『大阪府鳥類目録2001』によった。図2に生息区分割合(%)を示す。すなわち、留鳥37%、夏鳥6%、冬鳥37%、旅鳥20%であった。

今回の調査で37種の留鳥が確認されたが、四季別の文献調査の全てで確認されたのは、カルガモ、キジバト、カワウ、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ケリ、イカ

ルチドリ、シロチドリ、イソシギ、ウミネコ、ミサゴ、トビ、オオタカ、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ヒヨドリ、セッカ、ムクドリ、イソヒヨドリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワの 28 種であった。これらの鳥は、すべての季節に男里川河口鳥獣保護区内に生息することが判った。これらの鳥でゴイサギ、シロチドリ、ミサゴ、オオタカを除く 24 種は、冬期 12/28 の現地調査でも確認された。

今回の調査で確認された夏鳥はコチドリ、コアジサシ、ツバメ、コシアカツバンメ、オオヨシキリ、オオルリの 6 種であった。この内、5/20～7/20 の夏期に確認されたのはオオルリを除く 5 種であった。

今回の調査で確認された冬鳥は、オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、アメリカヒドリ、マガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、シナリガモ、クロガモ、ウミアイサ、カンムリカイツブリ、ヒメウ、ウミウ、クイナ、ミヤコドリ、クサシギ、ハマシギ、ユリカモメ、ズグロカモメ、カモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ハイタカ、ノスリ、チョウゲンボウ、ツグミ、ジョウビタキ、ビンズイ、タヒバリ、アトリ、シメ、カシラダカ、アオジ、オオジュリンの 38 種であった。この内、12/1～2/末の冬期に確認されたのは、カンムリカイツブリ、クイナ、ミヤコドリ、アトリを除く 34 種であった。

今回の調査で確認された旅鳥は、シマアジ、チュウサギ、ムナグロ、ダイゼン、メダイチドリ、オオメダイチドリ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、キアシシギ、ソリハシシギ、キョウジョシギ、オバシギ、ミユビシギ、トウネン、ウズラシギ、ツバメチドリ、イワツバメ、ノビタキの 20 種であった。

今回の調査で、冬鳥 38 種、旅鳥 20 種を確認した。これは出現鳥 101 種の 57%である。男里川河口は渡り鳥の越冬地や中継地として、良く活用されていることが判った。

また、科別にみるとカモ、カイツブリ、ウ、サギ、クイナ、チドリ、ミヤコドリ、シギ、ツバメチドリ、カモメの水鳥および水辺鳥は 59 種で出現総数の 58%と多くを占めた。

次に、繁殖および繁殖の可能性について述べる。今回の調査で確認した留鳥 37 種、夏鳥 6 種、合計 43 種を対象に、繁殖の可能性の判定を行った。繁殖の可能性の判定は環境庁編『日本産鳥類の繁殖分布』に従って判定を行なった。

その結果、繁殖を確認したもの(a ランク)はカルガモ、キジバト、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ムクドリ、イソヒヨドリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイの 15 種であった。

また、繁殖期に繁殖は確認出来なかったが、繁殖の可能性のあるもの(b ランク)はケリ、コチドリ、コアジサシ、ヒバリ、ツバメ、オオヨシキリ、セッカ、カ

ワラヒワの 8 種であった。

また、繁殖期に生息を確認したが、繁殖についてはなんともいえないもの(c ランク)は 13 種であった。繁殖期に生息を確認できず、繁殖については何ともいえないもの(f ランク)は 7 種であった。従って、今回の調査で繁殖とその可能性を確認できなかったものは 20 種であった。

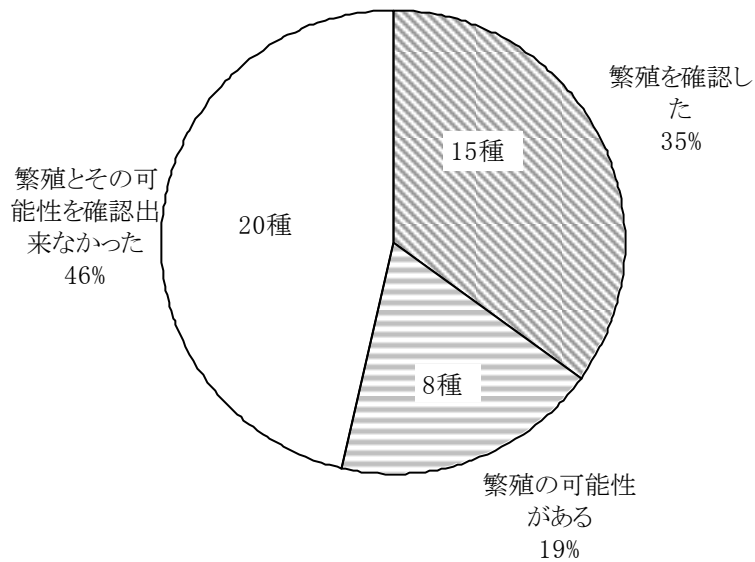


図 3 繁殖の可能性(%)

図 3 に繁殖の可能性(%)を示す。繁殖を確認したものは 35%、繁殖は確認出来なかったが、繁殖の可能性のあるものは 19%、繁殖とその可能性を確認出来なかったものは 46%であった。繁殖を確認したものと繁殖は確認出来なかったが、繁殖の可能性のあるものの合計は 54%と高い割合である。また、これらの種の内、カルガモ、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ケリ、コチドリ、コアジサシは水鳥と水辺鳥であり、これらは男里川河口鳥獣保護区の特徴を示している。

今回の調査で、国内希少野生動植物種としてオオタカ、ハヤブサの 2 種が確認された。特に国内希少野生動植物種のオオタカが四季を通じて確認されたことは特筆に値する。環境省レッドリスト記載種は 14 種が確認された。内訳は、絶滅危惧 I B 類(EN)としてヒメウの 1 種、絶滅危惧 II 類(VU)としてシロチドリ、オオソリハシシギ、ホウロ

クシギ、ツバメチドリ、ズグロカモメ、コアジサシ、ハヤブサの 7 種、準絶滅危惧(NT)としてチュウサギ、ハマシギ、ミサゴ、ハイタカ、オオタカの 5 種、情報不足(DD)としてケリ 1 種である。希少な鳥が数多く確認され、環境省レッドリスト記載種 14 種の内、10 種の 71%が水鳥と水辺鳥であった。また、大阪府レッドデータブック記載種については、絶滅危惧 I 類 2 種、絶滅危惧 II 類 10 種、準絶滅危惧 22 種の合計 34 種が確認された。

7-2. 哺乳類の確認

文献4で、4 種の哺乳類が生息していることが確認された。哺乳類確認種一覧表を表 2 に示す。大阪府レッドデータブック記載種は準絶滅危惧としてカヤネズミの 1 種が確認された。

表 2 哺乳類確認種一覧表

No	目	科	種名	学名	文献 5
1	コウモリ	ヒナコウモリ	アブラコウモリ	<i>Pipistrellus abramus</i>	○
2	ネズミ	ネズミ	カヤネズミ	<i>Micromys minutus</i>	○
3	ネコ	イヌ	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	○
4		アライグマ	アライグマ	<i>Procyon loter</i>	○

8. まとめ

1. 今回の調査において、男里川河口鳥獣保護区で 101 種の野鳥を確認した。確認した鳥類の内訳は、留鳥 37 種、夏鳥 6 種、冬鳥 38 種、旅鳥 20 種である。なお、水鳥および水辺鳥は 59 種で、出現鳥 101 種の 58%と多くを占めた。また、冬鳥と旅鳥の合計は 58 種であり、出現総数の 57%である。男里川河口は渡り鳥の越冬地や中継地として、良く活用されていることが判った。
2. 留鳥 37 種、夏鳥 6 種、合計 43 種を対象に、繁殖の可能性を調べた結果、男里川河口鳥獣保護区内で繁殖を確認したものの 15 種、繁殖の可能性のあるもの 8 種であった。これら 23 種は全体の 54%という高い割合である。また、これらの種の内、カルガモ、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ケリ、コチドリ、コアジサシは水鳥と水辺鳥であり、これらは男里川河口鳥獣保護区の特徴を示している。
3. 国内希少野生動植物種としてオオタカ、ハヤブサの 2 種が確認された。特に国内希少野生動植物種のオオタカが四季を通じて確認されたことは特筆に値する。

4. 今回の調査で、環境省レッドリスト記載種は 14 種が確認された。内訳は、絶滅危惧 I B 類(EN)としてヒメウの 1 種、絶滅危惧 II 類(VU)としてシロチドリ、オオソリハシシギ、ホウロクシギ、ツバメチドリ、ズグロカモメ、コアジサシ、ハヤブサの 7 種、準絶滅危惧(NT)としてチュウサギ、ハマシギ、ミサゴ、ハイタカ、オオタカの 5 種、情報不足(DD)としてケリ 1 種である。希少な鳥が数多く確認され、環境省レッドリスト記載種 14 種の内、10 種の 71%が水鳥と水辺鳥であった。
5. 哺乳類は 4 種の生息が確認された。すなわち、カヤネズミ、アブラコウモリ、タヌキ、アライグマである。カヤネズミは大阪府レッドリストの準絶滅危惧種である。
6. このように、男里川河口鳥獣保護区は鳥類、特に水鳥と水辺鳥の生息や繁殖に適した環境であると共に、府域の鳥類生息地として重要な地域であると言え、今後とも鳥獣保護区として更新を続け、野生鳥獣の生息地としてより良い環境を整えることが重要であると考えます。

9. 観察した鳥類の写真

図 4 に今回の調査で確認した鳥類の写真を示す。

10. 参考文献

1. 大阪府 大阪府レッドリスト 2014
2. (財)日本野鳥の会大阪支部 2002 年 大阪府鳥類目録 2001
3. 環境省 報道発表資料-平成 24 年 8 月 28 日-第 4 次レッドリストの公表について (お知らせ)
4. 日本鳥学会 2012 年 日本鳥類目録 改訂第 7 版
5. 環境庁編『日本産鳥類の繁殖分布』
6. 大阪府 大阪府野生生物目録 2000.3

男里川河口の野鳥



ミヤコドリ



ツバメチドリ



キアシシギ



キンクロハジロ



ミサゴ



カワセミ